

## 火災避難訓練実施

2月12日（金）、銚子市消防本部職員立ち合いのもと、火災避難訓練を実施しました。

### ■しおさい春日・のぞみ合同

午前9時30分に給湯室から出火したという想定で訓練を行いました。火災発生の声により全員が中庭に避難しました。その後、署員の指導で消火器の使い方についての話しと水の入った消火器を使っての実践を行いました。メンバーたちはここ数年、訓練で経験を積んで来たせいも、火元に見立てた的に向かってしっかり放水して倒していました。

訓練後の講評では「火災発生で避難した時、窓を閉めれば更に良い訓練でした。今後も継続的に訓練をすることが大事です」と話されました。



▲消火器の使い方指導



▲消火器の使い方実践



▲消防署員による講評

### ■しおさい三崎

同日の午前10時15分に厨房から出火したという想定で訓練を行いました。厨房内にいた職員の火災発生の声により、メンバー全員が外へ避難しました。その後、春日での訓練と同じく消火器の使い方についての話しと実践を行いました。最後の講評では、

①消火器は火事の時以外は触ってはいけないが、場所だけは覚えておく。

②消火器は火が小さいうちに使用し、火災が拡大して危険を感じたら逃げることを最優先に考える。と述べた上で、火災発生時に大切な事が4つあるとし、

①火災発生時一周囲の人に大きな声で知らせる。

②消防署へ通報—千葉へつながるので、住所を聞かれたら“銚子市”を付けて言う。

③初期消火—今後も消火器の取り扱い訓練を続けて欲しい。

④避難—火災では炎より煙を吸って亡くなる人が多い。煙を吸うと、体が動かなくなったり、意識が無くなってしまうことがある。ハンカチやタオルで口を押えて避難してほしい。

と話されました。



▲消火器の使い方指導



▲消火器の使い方実践①



▲消火器の使い方実践②



## 銚子訪問看護ステーションNEW 竣工祝賀会開催

昨年12月13日（日）、銚子市清水町に完成した銚子訪問看護ステーションNEWの完成を祝う祝賀会が、松本副理事長の司会進行で、訪看及び法人関係者の他、行政関係、医療関係、そして隣組関係者など約40名が列席して開催されました。

理事長挨拶に続いて高木さん（前訪看管理者）が話された「訪問看護ステーション開設から新事務所建設に至るまでの歩み」は、訪看の歴史そのもので、わずか7年半の間にも多くの苦難や苦労があったことを知る貴重な時間となりました。



▲訪看の歩みを話す高木さん



▲管理者による訪看職員の紹介▲



▲地権者の山本達男さん（最前列左）と内海陽子さん



▲隣組の皆さん



▲祝宴

さらにおいしいパンを作るために！！

### パン製造実習実施

昨年12月12日（土）、パン類の原材料を購入している大蔵物産（千葉市）から所属のパン職人の方を派遣して頂き、職員の須之内さんと飯田さんが、パン製造についての指導を受けました。

しおさいでパン製造を始める際、別の先生から指導を受けましたが、その方法よりも今回指導を受けたパン生地作り方や発酵方法、オーブンの温度や時間設定の方がさらにおいしいパンが出来ることがわかり、有意義な実習となったようです。



▲指導を受ける飯田さんと須之内さん

～編集後記～

「啓蟄」…「けいちつ」と読みますが、今年は3月5日がこの日に当たります。二十四節気（にじゅうしせっき・1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれを6つに分けたもので、現在でも季節の節目を示す言葉として使われている）の一つです。「啓蟄」という文字自体は虫のイメージとはほど遠い硬い感じですが、「啓」の字は“ひらく”を意味し、「蟄」の字は“土の中で冬ごもりしている虫”を表した漢字で、「啓蟄」という言葉で“冬眠をしていた虫が穴から出てくる頃”という意味になるとのこと。三寒四温を繰り返しながら暖かくなっていくのでしょうかけれども、季節は着実に春に向かっていきます。でも、花粉症の方にはつらい季節なのでしょうね。

